

# 第五回印東太郎賞 授与式・受賞記念講演

日時： 2018年10月20日(土) 16時30分～18時

場所： 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学三田キャンパス西校舎 527教室

(事前申し込み不要、参加費無料)

受賞者： 神前 裕 氏

(早稲田大学文学部心理学コース准教授、慶應義塾大学心理学専攻卒業生)

演題： What we talk about when we talk about conditioning

## 「印東太郎賞」設立の経緯

印東太郎(いんどう たろう)慶應義塾大学名誉教授・カリフォルニア大学名誉教授

1923 年生まれ、1945 年慶應義塾大学文学部卒業後、同大助手となり、1973 年まで同大教授。

その後、カリフォルニア大学アーヴァイン校教授となり、2007 年米国で死去。

没後、遺言に基づき慶應義塾大学文学部心理学研究室へ寄付がなされ、その寄付金を基金として印東太郎賞が制定されました。この賞は印東太郎博士と関係の深かった日本色彩学会、日本基礎心理学会、日本行動計量学会、日本認知心理学会、慶應義塾大学心理学研究室からの推薦を受けて、選考委員会が授賞者を決定するものです。

## 受賞者紹介

神前裕氏は、学習心理学を中核とし、神経科学的手法を用いた研究を精力的に展開されている気鋭の研究者です。同氏は、慶應義塾大学大学院修士課程を修了された後、ご自身の研究の理論的基礎となる連合学習理論を、その世界的中核拠点である英国ケンブリッジ大学の実験心理学部にてアンソニー・ディキンソン教授の下で学ばれております。博士号取得後もジョン・ピアス教授やアンソニー・マクレガー教授など同分野の先導的研究者に師事し、多くの成果を挙げておられます。

同氏の研究は、一貫して、動物を対象とし、様々な行動の変容過程を連合学習理論の枠組み落としこむことで、定量的な記述にとどまることなく、理論的な理解を与えるものであり、実験心理学の王道とも言える研究です。同氏の研究成果は、*Journal of Experimental Psychology: Animal Learning and Cognition* や *Hippocampus* をはじめとする実験心理学や行動神経科学の有力雑誌に多数掲載されております。さらに近年の研究では、従来の連合学習研究ではあまり対象とされてこなかった社会認知や、遺伝子改変動物やその内分泌操作など、その対象と手法を広げつつあり、同氏の柔軟な姿勢が垣間見るとともに、学習理論と神経科学の手法を融合した独自のスタイルを構築しつつあります。このような同氏の研究は、基礎的心理学分野だけでなく、本邦においても次第に深刻化しつつある薬物をはじめとする依存症研究にも大きく貢献することが期待されます。

(推薦文をもとに作成)